

2 研究の実際

(1) 新学習指導要領に関わる理論研究

ア 中学校社会科の改訂について

今回の改訂において、育成すべき資質・能力が「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱で整理され、「何ができるようになるか」が重要視されました。『幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）』では、図 1 のように示されています。

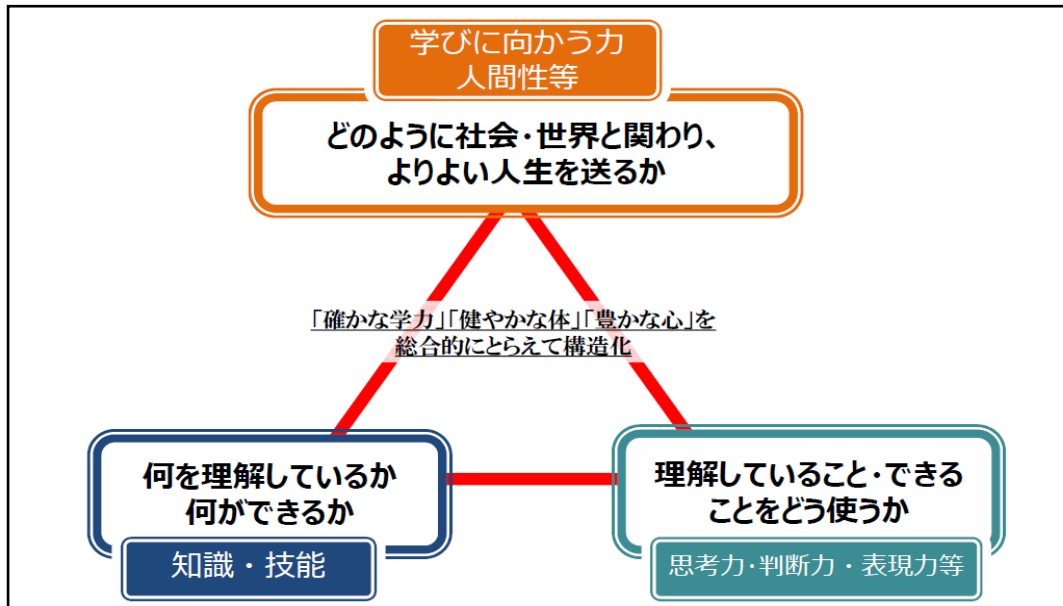


図 1 育成すべき資質・能力の三つの柱⁽¹⁾

これに伴い、全ての教科等の目標及び内容が、図 1 の三つの柱で整理され、『中学校学習指導要領解説社会編』（平成 29 年 7 月）では中学校社会科の目標が以下のように示されています⁽²⁾。

社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 我が国の国土と歴史、現代の政治、経済、国際関係等に関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- (2) 社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
- (3) 社会的事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される我が国の国土や歴史に対する愛情、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

新学習指導要領の目標は、現行学習指導要領と比べて大きく変化したように見えますが、総体的に捉えると、共通する内容が多いことが分かります。この共通した部分を除くと、「社会的な見方・考え方」が重視されたこと、「課題を追究したり解決したりする活動」（以下、「課題解決的な学習」と表記）が明確化されたこと、これまで使われてきた「公民的資質の基礎」が「公民としての資質・能力の基礎」になったこと、「グローバル化する」と「主体的に」が付け加えられたことの4点が、新学習指導要領で新たに付け加えられたり改訂されたりしたところです。

指導計画の作成上の配慮事項として、『中学校学習指導要領解説社会編』（平成 29 年 7 月）に示されたものを、本研究委員会では以下の3点に整理しました。

- ・主体的・対話的で深い学びの実現を図る。
- ・分野の特質に応じた見方・考え方を働かせ、社会的事象の意味や意義などを考察し、概念などに関する知識を獲得したり、社会との関わりを意識した課題を追究したり解決したりする活動の充実を図る。
- ・概念などに関する知識を獲得したり、社会との関わりを意識した課題を追究したり解決したりする活動の充実を図る。

『中学校学習指導要領解説社会編』（平成 29 年 7 月）においては、社会科の指導に当たって、「知識及び技能」が習得されること、「思考力、判断力、表現力等」を育成すること、「学びに向かう力、人間性等」を涵養することが偏りなく実現されるよう、単元など内容や時間のまとまりを見通しながら、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行うことが重要とされています。これまでも、「知識及び技能」や「思考力、判断力、表現力等」の育成を目指す授業改善が試みられ、多くの実践が重ねられてきています。これまでに組み込まれてきたそれらの実践を否定するのではなく、生徒や学校の実態、指導の内容に応じ、「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業改善を図っていくことが重要とされています。

イ 育成を目指す資質・能力の明確化

『中学校学習指導要領解説社会編』（平成 29 年 7 月）では、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の資質・能力が以下のように定義されています⁽²⁾。

- 知識及び技能
 - ・社会的事象等に関する理解などを図るための知識
 - ・社会的事象等について調べまとめる技能
- 思考力、判断力、表現力等
 - ・社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察する力
 - ・社会に見られる課題の解決に向けて構想（選択・判断）する力
 - ・思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力
- 学びに向かう力、人間性等
 - ・社会的事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度
 - ・我が国の国土や歴史に対する愛情、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、他国や他国の文化を尊重することの大切さへの自覚

文部科学省 『中学校学習指導要領解説社会編』 平成 29 年 7 月 p. 11

資料 1 三つの資質・能力

本研究委員会においては、育成を目指す資質・能力について、前頁資料 1 を基にして、資料 2 のように捉えました。

○知識及び技能

- ・主として用語・語句などを含めた個別の事実等に関わる知識
- ・主として社会的事象等の特色や意味、理論などを含めた社会の中の汎用的に使うことのできる概念等に関わる知識、情報を収集する技能、情報を読み取る技能、情報をまとめる技能

○思考力、判断力、表現力等

- ・社会的事象について、様々な側面、角度から捉えることのできる力
- ・多種多様な課題の解決に向けて、自分の意見や考えをまとめることができる力
- ・考察、構想（選択・判断）したことを、資料等を適切に用いて論理的に示したり、その示されたことを根拠に自分の意見や考え方を伝え合い、自分や他者の意見や考え方を発展させたり、合意形成に向かおうとする力

○学びに向かう力，人間性等

- ・学習上の課題を主体的に調べ意欲的に解決しようとする態度
- ・我が国の国土と歴史、現代の政治、経済、国際関係等についての多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養されるもの

資料 2 本研究委員会で捉える三つの資質・能力

ウ 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進

新学習指導要領では、「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業の質的改善が示されています。本研究委員会では『中学校学習指導要領解説社会編』（平成 29 年 7 月）を基に「主体的な学び」、「対話的な学び」、「深い学び」を資料 3 のように捉えました。

○主体的な学び

- ・課題を解決するために必要な「なぜ」「どのように」などの問いをもって、進んで発言したり、質問したりしている。
- ・課題を解決するために必要な「なぜ」「どのように」などの問いをもって、進んで資料を基に考えたり調べたりしている。
- ・課題を解決するために、資料を基に考えたり調べたりしたことを自分の言葉で表現している。

○対話的な学び

- ・課題を解決するために、資料を基に考えたことや調べたことを、根拠を示して互いに伝え合っている。
- ・課題を解決するために、相手の考えと自分の考えを比較しながら根拠を示して、自分の考えを伝えたり、相手の考えに反論したりしている。
- ・課題を解決するために、議論することで自分の考えを広げ、深めている。

○深い学び

- ・課題について、調べたことや考えたことを関連付けて自分の言葉で表現している。
- ・自分の調べ方や学び方、結果を振り返っている。
- ・新たな問い（課題）を見いだしたり追究したりしている。

資料 3 本研究委員会で捉える「主体的な学び」、「対話的な学び」、「深い学び」

『幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善必要な方策等について（答申）』では、「課題解決的な学習」の学習過程のイメージとして表 1 のような社会科、地理歴史科、公民科における学習過程の例が示されています。

表 1 社会科、地理歴史科、公民科における学習過程の例⁽³⁾

	課題把握		課題追究		課題解決	新たな課題
	動機付け	方向付け	情報収集	考察・構想	まとめ	振り返り
主な学習過程の例	<ul style="list-style-type: none"> ●学習課題を設定する ・社会的事象等を知る ・気付きや疑問を出し合う ・課題意識を醸成する ・学習課題を設定する 	<ul style="list-style-type: none"> ●課題解決の見通しを持つ ・予想や仮説を立てる ・調査方法、追究方法を吟味する ・学習計画を立てる 	<ul style="list-style-type: none"> ●予想や仮説の検証に向けて調べる ・学校外での観察や調査などを通して調べる ・様々な種類の資料を活用して調べる ・他の児童生徒と情報を交換する 	<ul style="list-style-type: none"> ●社会的事象等の意味や意義、特色や相互の関連を考察する ・多面的・多角的に考察する ・話し合う（討論等） ●社会に見られる課題を把握して解決に向けて構想する ・複数の立場や意見を踏まえて解決に向けて選択・判断する 	<ul style="list-style-type: none"> ●考察したことや構想したことをまとめる ・学習課題を振り返って結論をまとめる ・結論について他の児童生徒と話し合う ・学習課題についてレポートなどにまとめる 	<ul style="list-style-type: none"> ●学習を振り返って考察する ・自分の調べ方や学び方、結果を振り返る ・学習成果を学校外の他者に伝える ・新たな問い(課題)を見いだしたり追究したりする

これまでの社会科において大切にしてきた「課題解決的な学習」は、従前から「適切な課題を設けて行う学習」として、その充実が求められています。そのためには、生徒が社会的事象等から課題を見だし、課題解決の見通しをも

って他者と協働的に追究し、追究結果をまとめ、自分の学びを振り返ったり新たな問いを見いだしたりする方向で充実を図っていくことが大切です。表 1 のような学習過程で授業を行うためには、単元の全体像を把握し、単元を通しての(単元を貫く)学習課題を柱に授業のつながりを意識させ、問題解決的な学習となるような単元づくりが大切であると考えます。佐賀県教育センターによる『平成 27・28 年度「プロジェクト研究」中学校社会科』では、図 2 のような単元の全体像を把握し、単元を貫く学習課題を柱に授業のつながりを意識させ、問題解決的な学習となるような単元づくりの研究を進めてきました。平成 28 年度までに研究

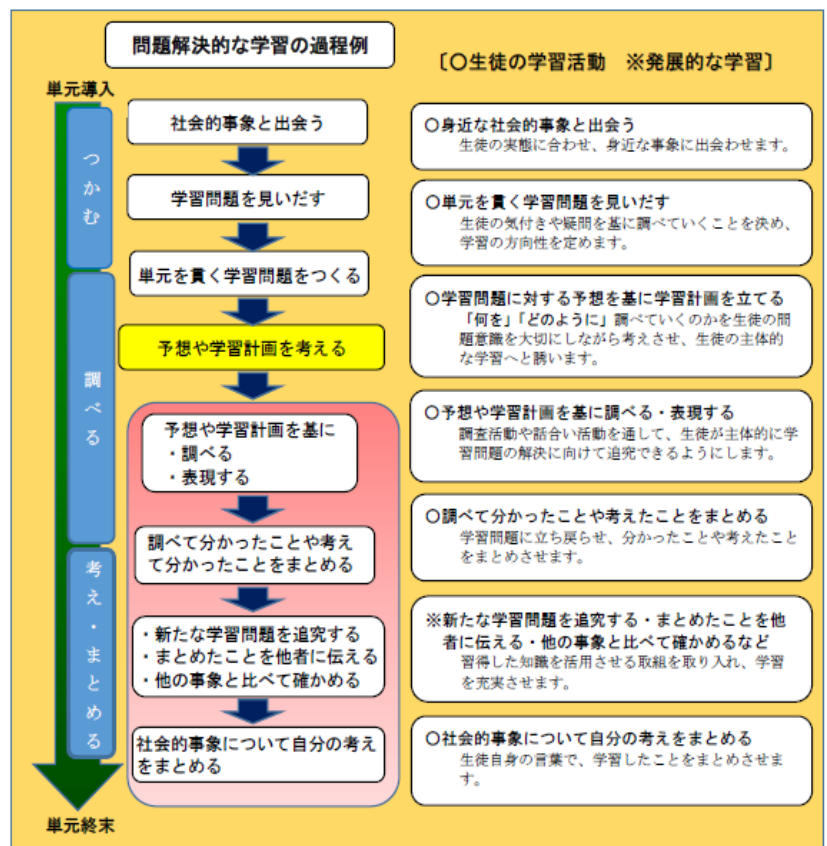


図 2 問題解決的な学習の過程例⁽⁴⁾

過程例と表 1 の学習過程の例は同じであると捉えています。表 1 中の「学習課題」と、図 2 中の「学習問題」は同じと捉え、本研究では「学習課題」と表します。また、「学習課題」については、本時で

追究・解決する課題を「本時の学習課題」、単元を通して追究・解決する課題を「単元を貫く学習課題」と表します。

前頁図 2 の過程を踏まえて単元づくりを行っていくことで「課題解決的な学習」につながり、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を推進できると考えます。

エ 「社会的な見方・考え方」の明確化

『幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善必要な方策等について（答申）』の中で、社会科、地理歴史科、公民における「社会的な見方・考え方」のイメージが、図 3 のように示されています。

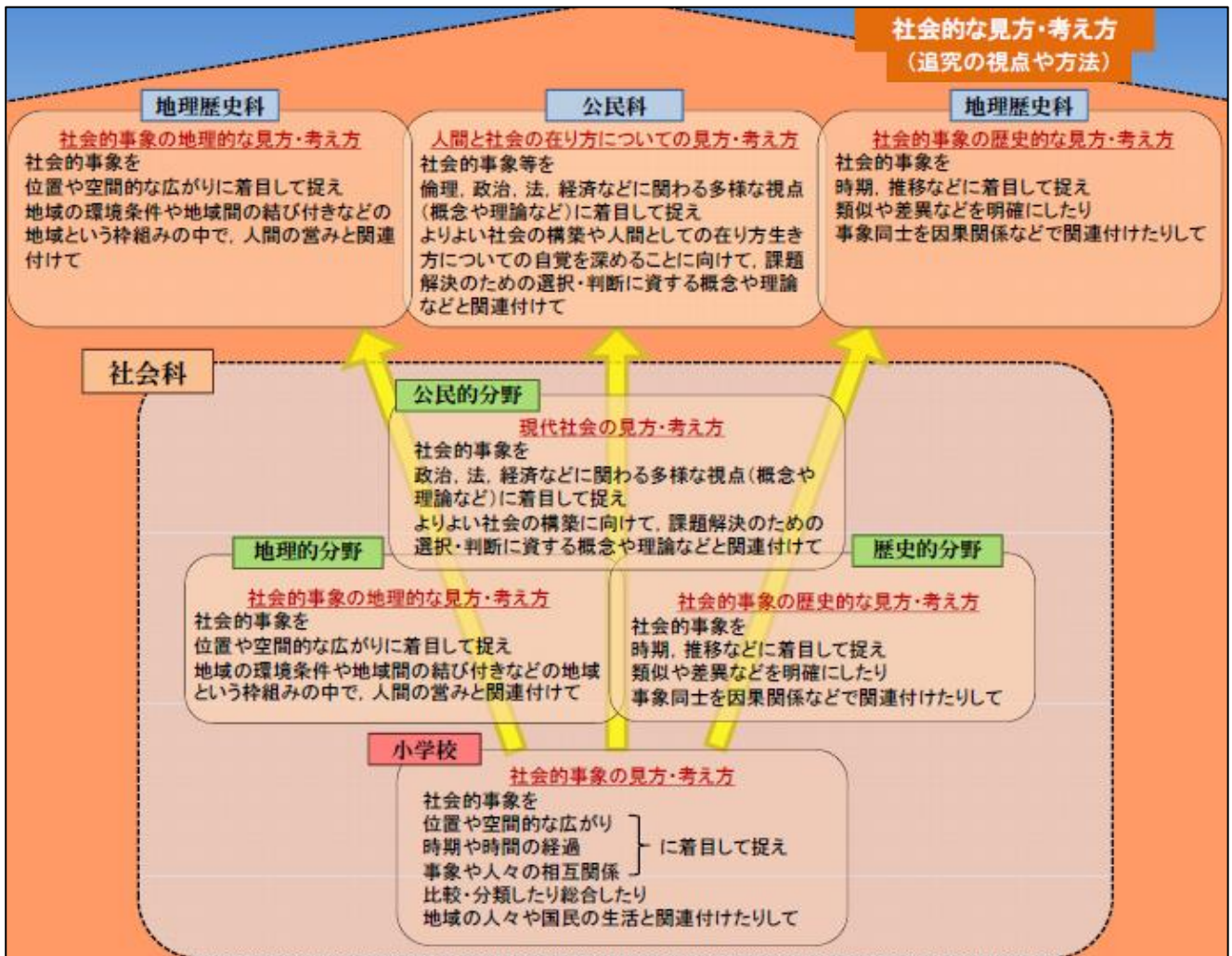


図 3 社会科、地理歴史科、公民科における「社会的な見方・考え方」のイメージ⁽⁵⁾

図 3 を基に、本研究委員会では「社会的な見方・考え方」について以下のように捉えました。

- 「地理的分野 社会科的事象の地理的な見方・考え方」
 - ・ 社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を考えたり、地域に見られる課題を把握して、その解決に向けて選択・判断したりする際の視点や方法
- 「歴史的分野 社会科的事象の歴史的な見方・考え方」
 - ・ 社会的事象を、時期や推移などに着目して捉え、類似や差異などを明確にし、事象同士を因果関係などで関連付ける際の視点や方法

○「公民的分野 現代社会の見方・考え方」

- ・社会的事象を、政治、法、経済などに関わる多様な視点（概念や理論など）に着目して捉え、よりよい社会の構築に向けて、課題解決のための選択・判断に資する概念や理論などと関連付けて働かせる際の視点や方法

《引用文献》

- (1) (3) (5) 中央教育審議会 『幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善必要な方策等について（答申）』 補足資料第 1 部 1、別添 3-4、3-6 平成 28 年 12 月
- (2) 文部科学省 『中学校学習指導要領解説社会編』 平成 29 年 7 月 p. 11
- (4) 佐賀県教育センター 『平成 27・28 年度「プロジェクト研究」中学校社会科』 平成 29 年 3 月

https://www.saga-ed.jp/kenkyu/kenkyu_chousa/h28/01_jugyoukaizen/04_tyu_syakai/documents/2-2jissai_tunagari.pdf